
リリカルなのはsts 戦闘犬

ピッツア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リリカルなのは s t s 戦闘犬

【NZコード】

NZ8322N

【作者名】

ピッシア

【あらすじ】

主人公、佐藤一郎が起きたら犬になっていた！

迫り来る子供達の魔の手、そして動きだす男の象徴を取り除こうとする者達

そして遂に現れる最強の犬、タローとの最終決着……

* * *

* + うそです

+ (ヨ) (* ' ') E)

Y

Y

*

吾輩は犬である名前はまだ無い（前書き）

ネタバレ、引かれます

吾輩は犬である名前はまだ無い

朝、起きたら毒虫になつた男の話を知つてゐるかい？ そうカフカの俺は今それと同じ様な状況に立たされている
毒虫何かじやなくもつとプリティーなもんだが
犬だ。

毒虫よりはましだろう、まあ？ まし？ つてだけだが
だがこんな時こそ忘れてはいけないのは常に冷静にいる事だと思う。
慌てたつて解決するわけじゃない、だから冷静に物事を判断し最良
の道を探す事だと俺は思う
だから冷静にタイムマシンを探すとしよう

「見て！お母さん、あの犬、自販機の中に頭突っ込んでるよー。」
「ふふつ、おバカな犬ね」

うるせつんだよー！ こんな状況で冷静でいられるか！
最良の道何か探せるか！ 慌てる事しか今の自分には出来んーー！
だからこれは決して馬鹿な行動では無い
人間なら当然の行動なのだ！

「一ぱりー待て馬鹿犬！」
へへっ、それをぐぎゅボイスで言つてくれるなんらいいぜ

今、俺は口にドックフードをくわえながら走つて
これまでの経緯を説明すると

あの後やつと冷静になれたけど

何をすればいいのかも何でこんな状況になつたかは分からないが腹は減る

犬を飼つた事無いので何を食えるのか知らないから、取り敢えずドックフードを食べようとしたのだが、犬の格好でドックフードを買える筈もなく

渋々盗む事にしたのだ……いや本当に渋々だよ？

おっちゃん「メン、でも俺をこんな状況にした奴が悪いと思つんだやつと食べれるぜ……くそ、開かない。何回か噛み噛みしたらやつと開いたなんか、ドッグフードを食うことにも、汚い地面で食うのも抵抗無くなつたな……

それから一週間の時が過ぎた……

相変わらず店からドッグフードを盗み（おっちゃん「めん、マジ」「めん）

ダンボールや落ちていた布の様な物を使って寝床を作つたり他の犬と意思疎通を図つていたり（なぜか全体的に青かつたが病気？）

今日は公園でどうやつて人間に戻れるかを考えている

ん？転がつたボールを追いかけ、女の子が道路に飛び出した！

そこに運悪く車が走つて来る、直からへヴィな物が見れそうだな

……あそこで善人なら助けに行くんだろうが、俺は善人じやないんでね（いや、善犬か？）

あの女の子には悪いが運が悪かったって事で……ん？もう一つボ一

ルが道路に飛んできたな、

あれ……あのボール見てると何か……

「すずかの奴相変わらず強いボールね……ん？ キアアアアア！」

「ガオウ！」

邪魔だ！ 嫩ちゃん！

ドン！

「きやー！」

よし！ ジャンプしてボールをキヤツチ！ ヒヤツホー！

楽しい！ もう一回だれか投げてくれないかなあ

ゴン！ 「キヤン！」

横から凄まじい衝撃を感じた瞬間、俺の体は飛んでいた

吾輩は犬である名前はまだ無い（後書き）

轢かれます

吾輩は犬である名前はもうある（前書き）

原作キャラ登場
脇役だけど

吾輩は犬である以前はもつある

あ？ ここは何処だ？

「アリサちゃん…目覚ましたよ！」

「ふあ……え！ あ…良かつた…良かつた…」

そして何だこの状況は

起きたら金髪の少女が「ごめんね」と犬に繰り返す状況がそこにはあつた

ごめんね？ 何に対しても謝っているんだ？

はつーもしや俺をこんな姿にしたのはこの嬢ちゃんか！？
許さん！ 絶対に許しはしない！ 謝つたって許さないからな
そんなに気持ちよく撫でられたって……まあ、話くらい聞いてやら
んこともない

どうやらこのアリサと云つ少女は車に轢かれそうになつた所を
俺が命を賭けて助けたと思っているらしい

まあ俺はアリサちゃん（馴れ馴れしい）を助けようとしたわけではなく
ボールに惹かれた所を轢かれただけなんだけどな

ドヤア・・・

喋れないから弁明できる筈もなく（する気もないが）少女の良い匂

いを犬の嗅覚で楽しむ

しかしこんな純粋無垢な顔で謝られると被虐心が…では無く罪悪感
がやばい

少女がどうやら泣き止んだらしい

「それにしてもあなた強いわね、車に轢かれてもかすり傷一つない
なんて」

「そうだよね、運が良かつたのかな?」

そ、それともまさかこの俺の体がチートだつたり！？

……人と喋れないと悲しい事を知った

少女達は相変わらず俺の事で話をしている

「じゃあお願ひね、すずか」

「うん、もちろん」

とんとん拍子に話が進み、どうやら俺はすずかといつ少女の家で飼
われるらしい

『冗談じゃない！自分でも時々忘れるけど俺は元人間なんだぜ！
人間が人間に飼われる事を容認出来る程人間を辞めちゃいない！

数日後、そこには猫と一緒に走り回るポチの姿が！（アリサ命名）

吾輩は犬である名前はもうある（後書き）

猫がいるのに飼つていいのかと言ひ話をスルー

吾輩は犬である狼ではない（前書き）

転生者

吾輩は犬である狼ではない

やあ、ポチと言つ不愉快極まりない名前に決まつたポチだよ（実は
気に入つてゐる）

月村家にも慣れてきた所すずかちゃんの友達が来たらしい

アリサ

くぎゅボイスの彼女とは何回も顔を合わせている
犬の俺は見た事ないが多分ツンデレだろう

高町なのは

可愛らしい顔のはずなのに、何故だらう悪魔と言つ單語が浮かび上
がつてきたのは
しかし何処かで見た顔の様な……

フェイト・テスタークッサ

アリサと同じ金髪である、何かいじめたくなる顔だ
こっちも何処かで見た気がする……

ハ神 はやて

関西弁の少女、何か狸を思い浮かべる子だ
こいつも何処かで見た気が……

ユーノ

フェレットである、何故だらう彼？に親近感が湧いたのは
彼を見てると何故かお腹が鳴つた

栗原 鉄

エロガキと言う印象を浮かぶでもビーフやら同学年とかに興味は無い

ようだ

メイドさんに工口い視線を送つて いる
親近感が湧く

高須 流

銀髪！イケメン！頭良い！
の三拍子が揃つて いる非常に殺意が沸くやつだ
くそ！どうせ俺なんか負け犬よ
こんな奴なんかこうだ！

「ギャ！」

「あれは！不機嫌顔の犬がいきなり高須くんの頭にしがみつきおしつこを掛けたあ！」

「なんで説明口調なんや
うはつははーざまあ見ろ！」

流が顔を真つ赤にして俺を睨んでいたがすぐにしたり顔を作り

「げ、元気な犬だね、でもすずか、躾はちゃんとしとくべきだよ
「うー、ごめんね、こら駄目だよポチ」

うひひ、謝る必要なんかないですよーだ

「シャワー浴びてきた方がいいんじゃない、臭いし」

ぶつひやー！テスタちゃんーん
やつたの俺だけどそれ酷くない？もつとオブラーートに包んだほうが
……天然？

はうあ！銀髪くんがものすつ！」こ顔で睨んでくる。
「ぐ、ぐめんなさい

「ぶつひやひやひや！そりや酷いぜ、フェイト嬢、た、確かに本当の、フツ、本当の事だけどもつと優しく言わないと……ギャハハハ！」

「ふつ！だ、ダメよ鉄…あはは」

「栗原！」

「わ！近づいてくんじやねえ！汚いだろが！」

「貴様！」

「ギャーーー近づいてくんじやねえ！冷静沈着（笑）が売りだらうが
！」

「！」

「仲良いなあ」

本当だな

あ、鉄が流に殴られた

あれを見ると人間の頃を思い出す

……散歩行こ。

すずかちゃんの足を叩き散歩に行く事を伝えるジオスチャーをする

「あ、行つてらっしゃい」

「なんや、今の？」

「ポチつて猫みたいにあつちこつち行くから心配で、行こうとする時教えてつて言つてみたら、本当に教えてくれる様になつたんだ」

「ほおー賢いなあ」

「リリエ…いや何でもない

散歩をしていると青い犬と出会った

飼い主の人は相変わらず金髪で美人だ

いつも通り彼女のパンツを覗こうとすると犬が話しかけてきた

「おい、今シャマルのスカートの中を覗こうとしなかつたか？」

「おいおい、近所で女性限定で紳士的な犬と噂されてるこの俺がそんな事するわけないだろ」

「そうか、それならいい」

「で、どうよ近況は」

「それなりだ」

「それにしてもシャマルさんのパンツは何時もピンクだな、何でなんだ？」

「お気に入りらしい……って、やつぱり覗いてたのか！」

「にしても相変わらずでけえなあ、お前本当に犬か？」

「スルーか、犬ではない狼だ」

「ぶつひや w w 狼とか w w w」

「……」

「ごめん、でも日本狼は絶滅した筈なのになあ」

「日本出身では無い、ベルガ出身だ」

「ベルガ～？ そんな所あるのか？ なにアメリカ？」

「別次元だからな」

「お前が何を言つているのか別次元すぎて分かんねえよ」

「ふむ、言つても信じないだろうがこの世界は……む、どうやら散歩再開の様だ、じゃあな」

「おい待てこらそんな謎を残したままはいさよならとかふざけてんのか、俺も行く」

「そうか、いいか、そもそも……」

「ほつほつ、それでそれで？」

やつふいーからこんなはなしをあこひたのしかつたのですまゐ

吾輩は犬である狼ではない（後書き）

主人公は男に厳しく女にいやらしい下劣な野郎です

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8322z/>

リリカルなのはsts 戦闘犬

2011年12月27日23時46分発行